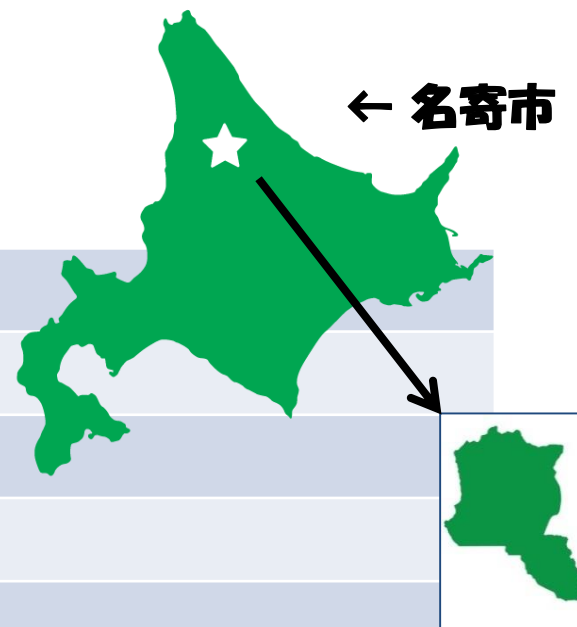


# 「警察署との連携推進について」



北海道名寄市  
健康福祉部こども・高齢者支援室  
地域包括支援センター主幹 兼 高齢介護課主幹 橋本いづみ  
(保健師・主任介護支援専門員・認知症地域支援推進員)

# 名寄市の概要 (平成28年4月末)



人口	28,412人
65歳以上人口	8,783人
高齢化率	30.91%
面積	535.23km <sup>2</sup>
主要産業	農業
(自慢の農産物)	もち米、アスパラガス、馬鈴薯、かぼちゃ等
気候・地理的特徴	寒暖差60℃(夏30℃、冬-30℃)
	旭川市から車で2時間弱



名寄市役所2階の窓から見た1月15日の様子  
(排雪作業の様子を含む)

天気：晴天

この日の最低気温：-21.2℃ ( 7:50)

写真撮影時の気温：-10.1℃ (14:30)

地域の特徴	自衛隊駐屯地、転勤族が多い 平成18年3月27日旧風連町と合併→高齢者増 出生数はほぼ横ばい
自慢したいこと	なよろ市立天文台『きたすばる』 ひまわり畑 日本最北の公立大学『名寄市立大学』 道北の中核病院『名寄市立総合病院』 サンピラー(太陽柱) スキージャンプで有名な下川町が隣町
日常生活圏域数	1圏域
地域包括支援センター数	1か所(市直営) 職員数(正職員9名、臨時職員4名) →包括的支援事業、指定介護予防支援、介護予防事業、任意事業、介護予防支援担当利用者と総合相談支援の一部利用者の要介護認定調査、市役所業務
認知症地域支援進員数	3名(包括内のみ)

## 名寄市の認知症施策 平成28年度

地域支援事業 (任意)	家族介護支援事業 認知症高齢者見守り事業  認知症サポーター等養成事業	徘徊高齢者SOSネットワーク事業 " 模擬検索訓練事業 " " 認知症講演会 地域見守りネットワーク事業 認サポ(町内会、企業、行政等) (小学生向け) 認知症サポーターの会
地域支援事業 (包括的 社会保障)	認知症総合支援事業 認知症地域支援・ ケア向上事業	認知症地域支援推進員等の配置 多職種協働研修
地域支援事業 (包括的 包括運営 社会保障)	地域ケア会議 地域ケア会議推進事業	地域ケア個別会議及び 地域ケア推進会議
地域支援事業 (介護予防)	一次予防事業	認知症の理解と予防に関する講話 介護予防講演会
地域支援事業 (任意)	その他 認知症対応型共同生活介護 事業所の家賃等助成事業	認知症グループホーム 居住費助成事業

## 活動内容の位置付け

認知症総合支援事業

地域ケア会議

認知症サポーター養成講座

総合相談支援

徘徊高齢者SOSネットワーク事業

地域見守りネットワーク事業

特別ではない、他の市町村でも取り組まれている事業

## 新聞記事

平成26年6月

市議会定例会で健康福祉部長が認知症対策について答弁

取材に来ていた北海道新聞（以下「道新」という）の記者が  
名寄市の認知症対策について地域包括支援センターを取材

記者は大学院時代の2年間介護施設でアルバイト  
→高齢者の介護について高い関心

### 記事の内容

認知症地域支援推進員等配置事業

認知症ケア向上推進事業

認知症サポーター養成講座

## 認知症対策に取り組む企業からの協力を得る

のちに協定を結ぶエーザイ株式会社の担当MRにも  
当市認知症対策について話す



認知症サポーター養成講座を医薬品卸売販売業の会社に宣伝してくれた



医薬品卸売販売業3社での開催を取り付けてくれた。  
平成26年7月に開催  
うち1社での認サポ開催時、道新記者が取材⇒道新記事掲載



# 認知症地域で支援を

【名寄】市は本年度、認知症高齢者やその家族を手助けする認知症サポーターの養成に力を入れる。認知症高齢者が行方不明になる問題が全国で起きていることを踏まえ、住民の理解を促して地域全体の支援の輪を広げるのが狙い。本年度中に、認知症サポーター養成講座の受講生200人増を目指す。（下山卓良）

## 名寄市

市の認知症サポーター養成講座は2008年度に始まった。講師役は全国キャラバン・メイト連絡協議会（東京）の専門的な研修を受けた「キャラバンメイト」が務め、受講生が認知症サポーターとなっている。14年3月末現在で市職員や民生委員、保健推進委員など11人のキャラバンメイトがおり、08

### 本年度受講者増目指す

## サポーター養成に力

13年度までの6年間で計20回の養成講座を開いた。延べ446人の市民が受講し、認知症サポーターとなっている。認知症サポーターに義務などはないが、徘徊している高齢者に声をかけるなどして支援する。今年3回目となる養成講座が28日、医薬品店のモロオ名寄営業所で開かれ、社員ら11人が受講した。キャラバンメイトで地域包括支援センターの橋本いづみ主任が、認知症の症状などを解説した。

橋本さんは、認知症は病気でなく脳萎縮による認知障害と説明。脳細胞死滅の影響で視野が狭まっている当事者に対し、横や後ろではなく顔の正面から声をかけるなど、サポート方法をわかりやすく紹介した。受講したモロオの高橋靖幸所長は「日常生活から社員が地域に貢献できるように」と話した。市は本年度、市内の小・中学校や市立大学、町内会などでも養成講座を開く予定。橋本さんは「認知症を正しく理解してもらい、多くの市民が高齢者を支える基盤をつくってほしい」と語った。



## 新聞記事効果

他の企業からも認知症サポーター養成講座開催依頼  
某信用金庫からも開催依頼、その金庫のキャラバンメイトが意欲的

認知症サポーター養成講座以外の記事

地域ケア会議立ち上げ支援事業を活用した講座

名寄地区ケアマネジメント研究会での事例検討会

地域包括ケアシステムについて

「地域包括支援センター」の活動の周知に



道新の他にも地元新聞社にも取材依頼を多発



当日の取材に来なくても、後日取材を受けたり、認知症サポーター養成講座の成果についての記事を掲載してくれたり・・・

## 警察署との連携に向けた取り組み

### ケアマネや認知症対応型デイサービスからの声

警察からこんなことを言われて、困った・・・

- 徘徊して行方不明になって警察に通報後、保護されたとき、家族が警察から「行方不明になると危険だからすぐに施設に入所させなさい」と言われた
- 家族は、「まだ一緒に住んでいたい」「施設の空きがない」
- 保護された本人は、「なぜ警察に保護されたんだろう？」「警察の制服に威圧されて怖い・・・」

行方不明になっても警察に通報したくない



この気持ちが何年も続く。  
警察からの言葉を変えられないだろうか・・・



認知症サポーター  
養成講座を開こう！

しかし・・・

警察は敷居が高い  
誰に相談したらいいのか・・・



以前、高齢者虐待で協力してくれた刑事・生活安全課の  
係長（市役所と警察は一体ですから！）に相談してみよう



平成26年10月はじめ 名寄警察署へ相談に  
係長は前任地で認サポ受けた

刑事・生活安全課の課長と面談←生活安全係長が講座の説明  
道新記事も話題に

「名寄警察署員全員への講座としたら？」  
警務課長と面談←生活安全係長と刑事・生活安全課長が講座の説明



毎月開催している会議終了後の時間開催することに

警察署警務課長と連携

平成26年11月26日名寄警察署で認知症サポーター養成講座開催



前述本人・家族の思いを認サポ講座でどう伝えるか

認知症対応型デイサービスセンター社長に聞き取りも



認知症の人の気持ち、認知症の人への対応、認知症の人の記憶に残ること  
徘徊高齢者SOSネットワーク事業模擬捜索訓練事業への協力を深謝  
「警察とうまく連携をとって支援体制を強化していきたい」と呼びかけ

# 北海道新聞、名寄新聞、北都新聞に記事掲載された

2014年12月1日 北海道新聞 朝刊 旭川・上川版

## 認知症患者や家族 手助けする方法は

名寄警員学ぶ

【名寄】認知症のある人やその家族を手助けする認知症サポーターの養成講座が名寄署で開かれ、署員約20人が症状や行動パターン、接し方などについて理解を深めた。

市地域包括支援センターの橋本いづみ主幹が講師を務め、11月26日に開催。視野が狭くなっている認知症



認知症の症状などについて理解を深めた養成講座

高齢者に対し、①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけない④の心得を説明。「アイコンタクトをとって2秒以内に話しかける」など注意点を指摘。家族の介護負担の軽減も必要とし、「地域全体で温かい目で見守ることが大切」と話した。

65歳以上の10人に1人が認知症との統計データを示した橋本主幹は「警察とどうまく連携をとって支援体制を強化していきたい」と呼び掛けた。(下山竜良)

講座終了後、警察署員数人と名刺交換や挨拶ができた



## 効果

そのあと、警察に電話をしたり、訪問したりすると、柔和な対応に

**警察地域課や刑事・生活安全課、交番から**

- 警察に相談があった認知症が疑われる高齢者についての連絡
- 安否不明の人の相談
- 屋根雪降ろしで転落した高齢者の相談
- 迷惑電話チェッカー設置の周知をしたい
- 高齢者虐待の案件の報告

協力をすることに



包括から警察に連絡を入れやすくなった

被害妄想で、模造刀剣を自宅から持ち出し、警察に保護された認知症高齢者について、地域ケア会議を開催することに



町内会長、介護保険事業者、保健所職員、包括職員、そして警察にも参加を要請



こころよく参加してくれた



後日、包括の担当者と同行訪問。

包括の保健師が生活安全係長へ  
「ケース宅訪問のときは、私服でお願いします」

# 平成27年2月10日 地域ケア個別会議の様子

※名寄市では地域ケア会議や事例検討会を「見える事例検討会<sup>®</sup>」方式で開催しています。

「見える事例検討会<sup>®</sup>・見え検<sup>®</sup>は八森 淳氏、大友 路子氏に帰属する登録商標です。

連絡先: [mieru-jirei@h2oir.com](mailto:mieru-jirei@h2oir.com)」





**2/21/14**      **2/21/14**

1. ...  
2. ...  
3. ...

4. ...

5. ...









# エコマップ



- ◎ 2~3人しかり  
話し相手をつくる→真剣に。
- ◎ 安否がわからない時は  
町内会長さんに協力して  
もらう。
- ◎ 息子に状況をしっかりと伝える◎
- ◎ 心療内科への診療へ  
「不眠」この本人の困り事から  
入る。
- ◎ 町内会の人たちとの理解
- ◎ ●さんに こいね時はケ-サ、  
" 包括

現在は

警察も組織、しかも縦割り  
お互いの弱点もお互いにカバー  
これまでの関係が変化してきていることを実感  
他の職員同士も連絡しやすい

警察以外では

認知症サポーター養成講座をライオンズクラブで開催した結果  
→受講した某会社社長が「自分の会社でも開催を」

認サポを開催した医療薬卸売会社（前述新聞記事）  
→調剤薬局へ認サポを紹介、開催

市立大学での認サポ開催  
→平成26年度から実施。平成27年度から授業の一環となった

目標値新たな認知症サポーター数

200人→400人越え（H26、27年度）

認知症サポーター数が倍増

## 先日の出来事

警察署から認知症高齢者の搜索協力依頼

→徘徊高齢者SOSネットワークを始動

→市で搜索班を編成、その編成数を警察に報告

→夜間になってもみつからない・・・

→その間、警察署へ状況確認等に行った  
(警察署では市役所の動きが不明だったのでは?)

→その直後、発見

そして・・・

→翌日朝、その高齢者の家族に面接しよう、と話していた直後  
道外から来た息子が包括へ ???

→息子が「今警察署へ行ってきたが、警察から  
「市役所や町内会の人達も捜索に協力してくれた」と聞いた  
のでお礼を言いに来ました」と。

その後、息子はすぐに前日協力してくれた町内会の人を一件  
一件訪ね、お礼を言ってまわった、と民生委員さんから情報

警察では施設入所のことも話された

認知症サポーター養成講座開催の取材依頼を多発した結果

- 取材依頼しなくても記者が包括に取材に来るようになり、「認知症サポーターが倍増」などの記事が掲載されるようになった
- ⇒自治体職員のための政策情報誌「プラクティス」に紹介記事掲載

因みに

平成26年12月16日

名寄市とエーザイ株式会社との「認知症対策・地域包括ケアの推進に関する包括的連携協定」締結

(当時道北で唯一。平成26年5月頃から準備をすすめていた)

名寄認知症連携会等、認知症に関する関係者向け研修

市民の関心が高まっている

→認知症の人の理解が広まっている

市民向け講座を平成27年7月、28年2月に開催

- ・認知症サポーターの会（仮称）への登録：40人

「これからやりたいこと、できること」を話し合っている



## 課題と今後の活動・取組の方向性

警察署員は2～3年で異動する

市の地域包括支援センター職員も他部署へ異動したり、退職する

担当者が変わっても、連携しやすい関係を維持していくこと

話をしやすいのが一番→顔の見える関係

必ず協力してくれる人がいる→「協力してください」と言わなくてもその人が自ら「自分ができることは何か」を考えて協力してくれる

## 課題と今後の活動・取組の方向性

認知症サポーター養成講座を通じて各関係機関との新たな連携

→平成27年7月28日

訪問薬剤管理指導を行っている某調剤薬局で認サポ開催

→ケアマネとのよいコミュニケーションの取り方の提言

在宅医療介護連携推進事業の展開も

⇒調剤薬局薬局長による「多職種連携について」

→一つの事業は他の事業の広がりにも結び付く

かかりつけ医との認知症対策について検討が必要

## 認知症地域支援推進員の皆様へ

関係のなさそうな機関、企業など、認知症に関心が強いことがあります

顔の見える関係づくりを

→電話やメール、文書だけではなく、顔を見せ合いましょう

人・タイミングを逃さない、アンテナを張ることも重要です

マスコミを上手に活用しましょう



～ご清聴ありがとうございました～